

① 「それは想定内だった」

毎日新聞に掲載されているコラムで、地震学の権威である神戸大の石橋克彦教授が、岩波書店の雑誌「科学」の97年10月号において発表された論文「原発震災～破滅を避けるために」の一部が載っていたのでそのまま抜粋する。今となっては驚愕すべき内容である。

- ①最大の水位上昇がおこっても敷地の地盤高（海拔6m以上）を越えることはないというが、1605年東海・南海巨大津波地震のような断層運動が併発すれば、それを越える大津波もありうる。
- ② 外部電源が止まり、ディーゼル発電機が動かず、バッテリーも機能しないというような事態がおこりかねない。
- ③ 炉心溶融が生ずる恐れは強い。そうなると、さらに水蒸気爆発や水素爆発がおこって格納容器や原子炉建屋が破壊される。
- ④ 4基すべてが同時に事故をおこすこともありうるし（中略）、爆発事故が使用済み燃料貯蔵プールに波及すれば、ジルコニウム火災などを通じて放出放射能がいっそう莫大になるという推測もある。。。

何のことはない、全て“想定内”だったのだ。おまけに2005年には衆院の公聴会でも彼は同様の警告を発していたのだが皆が“知らん顔”したそう。実は聖書は、

「このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れはしなかったでしょう。だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子（キリスト）は、思いがけない時に来るのですから。」マタイの福音書24章43-44節

と、警告している。災害対策は無論のこと、神が滅び行く人類に向かって“救いを先見せよ”と語りかけるメッセージでもある。日本人が神を信じ、未来を洞察できるよう心から祈る。

